

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991500030
法人名	一般財団法人信貴山病院
事業所名	グループホーム はあとの杜 さんごう
所在地	奈良県生駒郡三郷町立野南2丁目9番33号
自己評価作成日	平成26年10月29日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先<http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成26年11月18日
評価結果決定日	平成26年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営主体が病院と言うことも有り、医療・介護の連携が迅速かつ適切に行われる環境が保たれている事業所です。利用者様に「第二の我が家」と思っただけのように、家族様とスタッフの連携にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から徒歩1分と近く、家族も通いやすい場所にあります。経営母体が医療機関であり、多角的に事業を展開し、デイケアや訪問看護を利用しながら健康面でのフォローが充実しています。また、近隣の医療機関(協力病院)との連携も強く、医療の面でも安心して過ごす事が出来ます。ホームスタッフは、入居者の立場に立った暮らしが出来る様、入居者自身や家族との関わりを大切にしながら対応されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

ユニット名 (そら)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体で共有し実践しています	法人全体の理念を踏まえ、ホームの理念を作っています。その理念を日頃から職員が意識できる様、玄関、事務室内に掲示しています。また、毎日の申し送り時に、理念を読み上げ、理念の共有に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地域のデイケアを利用されたり、自治会行事にも定期的に参加されています	入居者も自治会費を支払し、自治会の一員として自治会行事に参加しています。また、ボランティアで絵手紙の指導者が訪問したり、デイケアを利用し、他者と交流機会があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、説明・理解は適宜行っております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様へ事前アンケートを実施、運営推進会議で話し合いを行ったり、自治会の皆様にも参加依頼をして話し合いを行っております	年度計画を立て、2か月に1回開催。自治会長、行政、家族が参加し、ホームの活動報告等を議題にして取り組まれています。また、多くの方の参加して頂く様、開催日は木曜日と土曜日に交互に設定するなど工夫されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に役場関係者の参加も依頼し、参加していただいています。役場関係者と地域密着型事業所の話し合いの場も設け参加しております	日頃から、担当者で連絡を取り合い協力関係を築いています。また、地域にある地域密着型サービスの事業所間での連絡会議に参加し、連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みは実施しています。玄関施錠に関しては、玄関前が車の通る道の為、法人本部指示にて常時施錠しています	玄関は、ホーム周辺の交通事情により施錠されていますが、面会者の訪問がある時は迅速対応されています。また、身体拘束についての研修を行い、身体拘束をしないケアについて理解を深めながら取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の外部研修に参加し、事業所内研修も年二回必須で研修実施しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在自立支援を活用されている利用者様もおられ、支援を続けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様とコミュニケーションを取る最大の機会でもあり、契約前説明も行い、本契約当日も一言一句すべて読み上げ、納得・理解を得れるまで説明しています。その結果、現時点で後からのクレームは一切ありません		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や個別郵送にてご意見を伺う取組、また面会簿も工夫して努力しています	玄関に意見箱を設置。郵送で用紙を送る、面会カードに意見要望を記入出来るなど、工夫されています。また、職員は、家族の面会時には、何でも話しやすい関係となる様、指導されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議を月一回実施、カンファレンスもスタッフの判断で自由にできるようにしています。面談も定期・適宜で行っており、意見の反映もしています	月1回、スタッフミーティング、入居者個々のケアについての話し合いがあり、管理者、職員で話し合いがあり、職員の提案事項等を検討しています。また、職員個々と年2回個別面談を実施し、相互理解を深めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与は努力を反映できるよう能力・実績査定。職場環境は物品購入を始め、全スタッフで話し合い、決定・実行しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキル・経験等を勘案し、「OJT」「OFF-JT」を実施しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着型事業所連絡会」を地域事業所で実施・参加しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前インテークを複数名で実施、サービス開始に出来るだけ支障が無いよう、努力しています。また見慣れたスタッフが出るだけそばにるように、正職員だけで運営できるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様へは事業所の相談はもちろんの事、管理者へも24時間いつでも相談できるよう、直通ダイヤルをお伝えしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	口頭だけではなく、書面での申し送りの徹底や、その都度すぐカンファレンスを実施しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も同じ食事を同じ場所でいただき、暮らしを共にする関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護方針の押しつけではなく、家族様の意向、生活歴も勘案しケアプランの決定・実行しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用料金を振り込みではなく、現金持参を家族様にお願いし、疎遠にならないようご理解・ご協力をいただいています	駅周辺の散歩やスーパーで買い物を日常的に行われています。また、家族の協力の元、自宅への外泊や外出、通っていた喫茶店へ出かけたりし、関係性が途切れない様取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の支援、事業所全体の支援を使い分け実施しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族様の迷惑にならないよう配慮はし、管理者・ケアマネが相談させていただきます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に趣味や希望を把握し、個別レクリエーションを計画・実行しています	入居前の情報を収集。また、日頃の会話から、趣味や意向を聞きだし、囲碁や絵手紙、絵画、家庭菜園などの趣味の継続や行事の時、キーボード演奏など活躍できる場面を作ったりし、ホーム内での暮らしに反映されています。	今後、交通機関を利用して屋外での活動にも繋げていきたいと積極的な姿勢が伺えます。入居者の立場にたつた対応の更なる発展に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフの偏った見解・理解にならないように、複数のスタッフでインテークに努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを各利用者様担当者が作成。また当事業では「ケアカンファレンス」と位置付けし、定期的な話し合いの場を設けています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者だけではなく、担当者以外のスタッフも話し合いの場に参加しています。ご本人様・家族様・医療従事者の意見、指示も介護計画に反映するよう計画書を作成するよう努力しています	日頃から、個別の検討会が随時開催。また、定期的には月1回、カンファレンスが開催。入居者のケアや援助目標について、職員や医療機関からの意見を集約し計画を作成しています。また、家族へも面会時に内容を説明、遠方の家族には電話できめ細やかに説明し同意を得られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当事業所では「記録表」「介護記録表2」に記入実施しています。些細な事もスタッフ間で連携・伝達できるよう業務日誌にも記入しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等の支援も、ご本人様・家族様のご要望に出来る限りお応えできるよう柔軟な対応を取っています。家族様希望で、計画書を上げ対応している方も居られます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるスーパーやリハビリ施設も積極的に利用し、下肢筋力の低下予防に努めています。また外に出かける機会を多く設け、気分転換をしていただいています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人・家族様に決めていただいております。当事業所が連携しているかかりつけ医も紹介・説明は前家族様にしております	事業所の協力病院から2週間に1回の往診、週1回、同一法人の訪問看護の訪問もあり、医療面では24時間相談対応が可能です。また、デイケアに併設されている精神科への受診も可能です。その他、家族の協力を得て、元々のかかりつけ医への通院も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携も実施しており、24時間適切な看護が受けれるようにしています。定期的な訪問も実施してもらっている為、相談も適宜できております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の緊急受け入れ体制が有る病院様には、連携部の方と常に連携は取っています。法人を上げ協力医療機関として連携も取っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に「看取り指針(定義)」は十二分に説明しております。また随時、個々に家族様・主治医と話をし支援に努めています	ホームでの対応が出来る範囲で、家族や本人の意向に沿う方向で対応をされています。医療面でのサポートもあり、入院対応が望ましいと判断があった場合などを除き、重度化した場合や終末期、看取りについては協議を重ねながら対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急連絡の周知に努めています。介護未経験者も多い為、看護師からの指示を受け対応しています。職員研修・訓練は今後の課題でもあります		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管轄消防署にも訓練に参加・指導していただいています。参加職員だけでなく、全スタッフ書面での周知も徹底しています	年に2回、消防署の立会の下、防災訓練を実施されています。また、備蓄は、法人本部で管理。ホーム内にはカセットコンロ等必要最低限の物を保管しています。	地域の特徴(大学があり一人暮らしの学生が多い地域)もありますが、有事の際、近隣住民の協力は不可欠です。開設して1年半と間もない事もありますが、自治会や近隣との協力関係の構築に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフ外部講師を招いた接遇研修は、必須で受講しております。また毎申し送り時、接遇チェックを読み上げ確認しております	本部の企画する外部講師による接遇研修を全スタッフが参加。日頃の業務では、申し送り時に身だしなみや言葉使いに関するチェック表を読み上げて周知されています。また、管理者が日頃の職員の発言等をチェックし、必要であれば外部研修を受けるなど、意識付けがなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過度の促し、声掛けはしないよう心掛けています。炊事・洗濯・掃除等も利用者様の希望が有る場合、自ら進んで出来るよう取り組みをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	地域にあるデイケア利用も含め、利用者様の気分・希望を尊重し、当日またその場その時に確認し、支援させてもらってます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やおしゃれ等、ご自身で出来る方にはご自身で、またスタッフより「お声掛け」にて対応させていただいている利用者様も居られます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付け共に、積極的にされる利用者様が居られますので、負担にならないよう配慮した上でしていただいています	準備や片づけの場面で、入居者の方が自主的にスタッフと協同しながら支援しています。また、2ユニットそれぞれで入居者の意見を聞き別メニューとなっています。	元々、ホーム内で調理を行っていましたが、業務的な面で、惣菜は外注となっていますが、近々、本来の対応に移行する予定です。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス等、管理栄養士のチェック体制をとっており、指導・アドバイスをいただいています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日4回、個人にあった道具を使用し歯磨きの実施。液体口臭ケア用品の使用もしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別で排泄間隔の把握、また全スタッフ同一対応できるよう書面にて確認して実行しています	個々の排泄パターンを分析し、個々の対応決定事項一覧表に、排泄確認時間等を記載し対応しています。また、職員にも、安易にオムツにしない様意識付けをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分量の把握や、朝食時定期的に乳酸菌摂取も心がけています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	母体の病院内に温泉施設が有る為、利用者様の希望が有れば入浴していただき、好評を得ております	デイケア利用時に温泉施設があり、木曜日には希望者は入浴しています。また、ホームでの入浴は、好きな時に入浴できる様、夕方まで対応が可能。最低週3回は入浴して頂ける様声かけが行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身のタイミングで自由休んでいただき、室温調整はスタッフがしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルにまとめ、閲覧・確認がしやすいように努めています。また自己管理ができない利用者様にはスタッフが把握した上で個々にあった支援をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア様にも活動依頼しており、利用者様には自由参加していただいております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に散歩もスタッフの見守りが出来れば自由にしてもらっています。また家族様にも外出・外泊の制限無しで、自由にしていただいています	近隣のスーパーや公園への散歩に出かけています。また、ピクニックや初詣を企画し、外出機会を設けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理も自由で、詰所にてスタッフ管理も可能にしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本自由にさせていただいております。また携帯電話を所持されている方も居られます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在混乱を招くような事は特に有りませんが、季節感を感じる掲示物や、カレンダーの掲示をしております	リビングは吹き抜けで解放感があります。また、天窓から優しい日差しが入り、あたたかい空間となっています。また、季節感のある絵や、入居者の作品や掲示物は整理して掲示され、落ち着いた空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	立地上、非常に狭い共用フロアですが、気の合った利用者様同士の座席は配慮しております。また圧迫感の無いように吹き抜け設計にしております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス等、使い慣れたものが有れば持参していただくよう、お声掛けは全家族様にしております	ベッドは備え付けで、その他の物、趣味の道具は持ち込まれています。裁縫道具など自身で管理ができない危険なもの以外は持ち込み可能です。	家族や入居者の意向を聞きながら、居心地よく過ごして頂ける様、個性的な居室となる様、空間の有効活用に期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示等、出来るだけ迷われる事がないよう、またご自身で行動できるような配慮はしております		